



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二十七号〜

春分 しゅんぶん 三月二十一日

彼岸西風

春は風の季節でもあります。二十四節気の立春後、初めて吹く北風を春一番、東から吹くやや強い風を東風、春分の今頃に吹く西風は、彼岸西風と呼びます。

彼岸西風は、釈迦入滅の旧暦二月十五日に行う涅槃会前後に吹くことから涅槃西風ともいいます。西方浄土からの迎え風といいますが、この風が吹くと寒さが戻ります。春の風は暖かで穏やかなイメージがあるものの実際には、三月は強風が吹き、春と冬が行ったり来たりする変動の季節なのです。

志摩半島の大王町波切は、熊野灘に突き出た大王崎に立つ灯台で知られます。ここは古くから鰹漁など漁業が盛んな町です。大王の漁師さんに風について話を聞きました。

「大王にとって、南東の風が一番こたえる。漁師は何もできないので、南東の風、墓参り」といいます。海は大しけなので、数日漁には出れず、実際にはエビ網やはえ縄の道具の手入れなどをしています」

熊野灘に南東方向に突き出した大王では、南東からの風が吹くと海が荒れ、漁に出られない日が続くため、墓参りに行って先祖に手を合わせるしかないという言い伝えでしょう。

また南風で海が荒れるとかつては伊勢海老が大漁になったため、無理をして網を入れ、事故につながったこともあったと教えてくれました。そのため中学の時に親と一緒に船に乗った同級生が亡くなったそうです。

海を生業とする漁師にとって、風を知ることが命を守ることでもありました。こんな言い伝えもあるそうです。「春の嵐、果報は寝て待て」。漁師の焦る気持ちをいさめる先人からの教訓。いくたびもこの言葉を噛みしめる漁師町の春です。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 五十鈴川桜まつり

新緑の朝熊山を背景に、対岸の桜を眺めながら、お花見料理で華やかに、夜桜のライトアップでしっとりとお花見していただきます。

五十鈴川の桜と一緒に、うらかな春のひとつときをお過ごし下さい。

と き / 4月上旬 (桜の見頃の時期に合わせて) 10:00～

ところ / 五十鈴川河川敷周辺

● 花見屋台

田楽や団子などの屋台が並びます。赤毛せんの数かれた縁台に腰をおろし、のんびりとお過ごし下さい。

● 夜桜のライトアップ

日没より、五十鈴川新橋周辺の夜桜をライトアップします。風のない日は、五十鈴川の水面に映る美しい桜もお楽しみください。

と き / 満開の頃 19:00～21:00

※雨天時は中止させていただく場合もあります。予めお問い合わせの上、お越しください。

● 春の特別奉納芸能

古より伝えられた音・舞に常に新しい風を吹き込み続けている、『日本芸能 花咲音』による演奏です。

と き / 4月7日(土) 19:00～ 4月8日(日) 14:00～

ところ / 五十鈴川河川敷特設舞台

観覧料 / 無料

出演 / 花咲音 (加藤木朗、内藤哲郎、阿部一成)

五十鈴塾

○ 三重の桜を元気に

鈴鹿市にある子安観音の「不断桜」、国指定天然記念物で10月下旬から4月上旬まで花をつけます。その元をたどるとなんと天平年間に遡るそうです。さすがにその時の木ではありませんが、江戸時代の伊勢参宮名所図会にも載っているほど有名な桜です。この桜、近頃樹勢が衰えてきたので、樹木医である中村さんが手当をして回復に向かっています。

伊勢市で有内なのは宮川堤の桜、これも最近勢いが無くなって心配されています。外宮近くの旧豊宮崎文庫の庭のお屋根桜、昭和3年に山桜の新種に認定されたものですが、これもいささか心配な状態、津市の三多気の桜などの現状などについてもお話いただけます。

更にもうひとつ、紀伊半島南部に新種かもしれない山桜が発見されていることも紹介していただきます。

と き / 3月29日(木) 13:30～15:00

講師 / 中村 昌幸 (一般社団法人 日本樹木医会三重県支部樹木医)

参加費 / 一般1,300円 会員800円

集合 / 五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

はる かわ
春の川

五十鈴川の流りがほんのり桜色に染まり、美しい風情を醸し出しています。色付けした葛寒天で桜餡を包み、春爛漫の気分満ちた川端の景色を表しました。

の
野あそび

はるか昔から、人々が楽しみ、愛し続けてきた春の野遊び。古人の心を想い、よもぎの草餅をこしらえました。懐かしい摘み草の思い出が帰ってきます。

おう か
桜香

咲く様も散る様も美しく、古来より愛されてきた桜の花。こし餡を包んだ薯蕷ねりきりで桜の花をかたちどりしました。やわらかに香る春をお楽しみください。